

## 新建全国の東日本大震災復興支援への取り組み

2011年4月17日

新建東日本大震災復興支援会議

### 1. 新建会員や関連団体の主な取り組みは以下の通りです。

- \* 3月12・3日：全国幹事会で議論し、声明発表と救済募金を決める
- \* 13日：第1次声明を発表 ホームページに掲載
- \* 16日：佐藤隆雄氏、緊急提言を発表
- \* 19日：丸谷博男氏、「応急仮設住宅・復興住宅への提言」発表
- \* 20日：塩崎賢明氏、「東北関東大地震のよりよき復興に向けて」発表
- \* 22日：兵庫復興センター「東日本大震災の被災者救済、避難・仮設居住に関する第1次提言」を菅総理らに提出
- \* 25日：全国事務局会議で、全国としての支援組織と先遣団の派遣を決定
- \* 25日：住まい連「東北関東大震災の住宅・居住支援についての緊急要請書」を発表
- \* 31日：災対連「東日本大震災救援物資の共同発送と救援ボランティアの派遣実施について」を発表
- \* 4月1日：丸谷氏、ブログ「日本の道」立ち上げ その中で会員の支援策を掲載
- \* 4日：防災問題・首都圏懇談会「東北関東大震災 緊急報告会」を開催
- \* 5日：持ち回り常任幹事会で、新建東日本大震災復興支援会議の設立を決定
- \* : 支援先遣団仙台へ出発、9日まで活動
- \* 7日：仙台にて先遣団と宮城支部など地元関係者と合同会議
- \* : 仙台市より福岡市へ福永氏提案のサニタリー・ユニットの問い合わせ
- \* 10日：兵庫復興センター「東日本大震災の被災者救済・・・に関する第2次提言」提出
- \* 13日：新建復興ML立ち上がる
- \* : 「東京駅赤煉瓦駅舎の屋根のスレートについて」署名活動、新建444名集める

今回の地震で被災した千葉県、長野・新潟県では、支部会員が応急判定、建物診断、補修設計などに関わっている。

また、多数のメールの遣り取りがあり、情報の提供や意見交換が活発に行われている。

## 2. 新建全国が支援できる領域

新建は現在 1,000 人弱の会員を擁し、専門分野も設計、コンサル、施工、行政、研究など多分野に及ぶ。今回の復興支援に関わる分野の状況は下記の通り。

### 1) 建築に関して

#### \*戸建て住宅

会員には専門の設計者が多く、建物診断、改修・改造・建替えの相談と実施など、全てに対応可能。住まい手の要求や状態に沿ったきめ細かい相談と設計が特徴。

#### \*施設建築

実績ある会員が多い。特に高齢者施設・住宅、介護福祉施設、保育施設では実績と意欲のある会員が多い。

#### \*構造設計

経験豊かな会員がいるが、数が若干少なく震災後忙しいので技術助言・指導が主になりそう。

#### \*共同住宅、マンション

維持管理・補修についてはソフト面を含めて実績ある会員が増えている。耐震補強についての相談・実施も対応できる。建替えについても数事務所において実績がある（ユーザーのマンションの建て替えなど）。もちろん、災害公営住宅など新規建設の設計支援も十分に出来る。

#### \*コーポラティブ住宅

新建は早くからコーポラティブに関わった建築団体であり、実績は多い。堅牢な復興住宅の要求が高まると予想されるが、共同建替えにおいて個別の要求を活かした共同住宅づくりは得意分野と言ってよい。

### 2) まちづくりに関して

#### \*共同建替え

単に共同住宅の設計だけではなく、土地や権利関係の整理といった前段から担える会員事務所は複数ある。複数事務所が共同でプロジェクトに取り組むことも可能。

#### \*防災計画

防災を専門とする事務所の他、防災を専攻する研究者会員がおり、チームを組んで防災計画を支援することは可能。

#### \*まちづくり一般

行政の下でのマスタープラン作りなどの実績もあるが、市民のまちづくりを多くの会員が支援してきている。行政と市民が対立構造ではなく協働で復興まちづくりを進めることが重要であり、新建のこれまでの姿勢と実績を活かせると考えている。

復興支援会議では、全国の会員が<どのような分野で、何時、どの程度の>支援が出来るかを常時把握するように努め、現地・支援ネットワークからの要請に応えられる体制を作って生きたい。